

がん検診のススメ

⑤乳がん

乳がんは、乳腺にできるがんのことです。乳がん検診は国が推奨するがん検診の1つで、受診により死亡率減少の効果が認められています。

日本人女性が乳がんになる確率は9人に1人とされ、女性が罹るがんの中で最も多いのが乳がんです。また、近年は乳がんによる死亡者数が急増しており、40代女性の死亡原因の第1位となっています。

一方で、乳がんは早期発見・早期治療をすれば長生きすることが望める病気です。さらに、早期の段階で乳房局所切除、部分切除など縮小手術ができれば、乳房の温存が可能となり、女性にとって大切な外見上のハンディーキャップを減らすことができます。

乳がん検診には、マンモグラフィ検査と乳腺超音波検査の2種類があります。

マンモグラフィ検査は、板状のもので乳房を挟んで撮影します。触診ではわかりにくい1センチメートル以下のしこりや、乳がんの初期症状である石灰化の発見に有効な検査です。

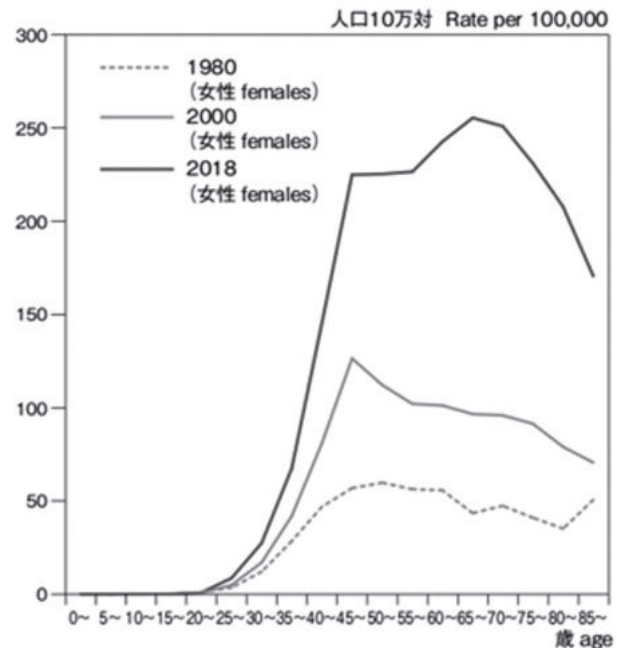
乳腺超音波検査は、乳腺内の腫瘍や乳管内病変の有無などを確認できます。また、腫瘍がある場合は、その大きさや腫瘍内の血流などを見ることが可能です。

乳がんの早期発見・早期治療のため、自覚症状がなくても40歳になったら国が推奨するマンモグラフィ検査を定期的に受けましょう。また、町では、乳がんにかかる若い女性が増えてきたことから、20歳以上39歳以下の方を対象に乳腺超音波検査を実施しています。どちらの検査も無料で受けることができますので、大いに活用してください。

軽井沢病院乳腺外科 玉木 雅子



(12) 乳がん (女性) Breast (females)



引用：国立がん研究センターがん情報センター、がん統計 図表編